別記

プログラム科目

|  |  |
| --- | --- |
| 学習内容 | 科目名称 |
| A | 数理・データサイエンス・AIは，現在進行中の社会変化（第 4 次産業革命，Society 5.0，データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること，また，それが自らの生活と密接に結びついているものであること。 | 情報処理入門Ⅰ数理・データサイエンス・AI |
| B | 数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって，日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。 |
| C | 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され，数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域（流通，製造，金融，サービス，インフラ，公共，ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。 |
| D | ただし数理・データサイエンス・AIは万能ではなく，その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI，個人情報，データ倫理，AI社会原則等）を考慮することが重要であること。また，情報セキュリティや情報漏洩等，データを守る上での留意事項への理解が重要であること。 |
| E | 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など，社会での実例を題材として，「データを読む，説明する，扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。 |